

2026年の秋分は9月23日です。

次の節気である寒露前日までの期間9/23～10/7を指す場合もあります。

秋分の日「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日として、国民の祝日に関する法律で定められています。その起源は、宮中で行われていた「秋季皇霊祭」にあります。

歴代の天皇や皇族の御霊をお祀りするこの儀式が、やがて国民全体でご先祖様を敬う祝日へと発展しました。

単なる休日ではなく、自分のルーツに思いを馳せ、日々の生活に感謝する日です。

<秋の伝統行事「十五夜」と「中秋の名月」の由来>

9月に入ると「今年の十五夜はいつだろう？」と思う人も多いのではないのでしょうか。そもそも「十五夜」とは、「旧暦の毎月15日の夜」を指しますが、1年で最も空が澄んで美しいとされる秋（旧暦8月15日）の月が「中秋の名月」として定着しました。

十五夜の日には旧暦に基づくため、毎年日付が変わり、2025年は10月6日（月）、2024年は9月17日（火）でした。2026年の中秋の名月（十五夜）は9月25日（金）です。

<日付が変わる仕組み>

中秋の名月（十五夜）の日付が毎年変わるの、旧暦は月の満ち欠けが基準で、月が新月になる日を1日（ついたち）とし、そこから数えて15日目を8月15日（十五夜）としていました。

月の満ち欠けの周期（約29.5日）を12回繰り返すと約354日となり、太陽の動きに基づく現在の新暦（1年365日）とは毎年11日前後のズレが生じ、新暦では9月中旬から10月上旬の間を移動します。



なんとなく「十五夜（中秋の名月）は満月」というイメージがありますが、新月から満月になるまでにかかる日数は約13.9日～15.6日と大きく変化します。旧暦15日目の夜と、天文学上の満月の瞬間が重ならず、1～2日ほどずれることがよくあります。今年（2026年）の満月の日は9月27日（日）で、中秋の名月から2日ずれます。

十五夜（中秋の名月）にお月見をする風習はいつから始まったのでしょうか。中国では、秋の中心を祝う「中秋節」という行事が古くから行われていました。その中秋節が平安時代に日本へ伝わり、十五夜にお月見をする風習として定着したといわれています。丸い月見団子を満月、すすきを稲の穂に見立て、中秋の名月に秋の実りを感謝したことが日本の十五夜の由来という説もあります。

十五夜は、日本人にとって大切な「農耕」と深く関わる年中行事といえるでしょう。

「十五夜の月にかくれん雲もなし」

与謝蕪村

意味：十五夜の満月を隠すような雲はひとつもなく、夜空はどこまでも澄み切っている。

澄み渡った秋の夜空に、少しの曇りもなく煌々と輝く満月を美しく詠んだ一句です。